

中学校

平成 12 年 度

# 教育研究員研究報告書

社 会
-----

東京都教育委員会

平成12年度

## 教育研究員名簿（社会）

### <地理的分野>

区市町村名	学 校 名	氏 名
江 東	辰 巳 中 学 校	桐 野 和 之
目 黒	東 山 中 学 校	中 島 由 美 子
世 田 谷	砧 中 学 校	○ 莉 込 希
八 王 子	四 谷 中 学 校	長 井 忍
青 梅	第 二 中 学 校	板 山 寛 久
調 布	第 四 中 学 校	高 岡 麻 美
多 摩	多 摩 永 山 中 学 校	立 川 裕

### <歴史的分野>

区市町村名	学 校 名	氏 名
文 京	本 郷 台 中 学 校	入 子 彰 子
杉 並	東 田 中 学 校	池 本 り ゑ
板 橋	高 島 第 三 中 学 校	野 田 博 之
足 立	第 十 中 学 校	◎ 菅 野 光 治
葛 飾	中 川 中 学 校	小 嶋 研 一
東 村 山	東 村 山 第 六 中 学 校	北 見 朱 美

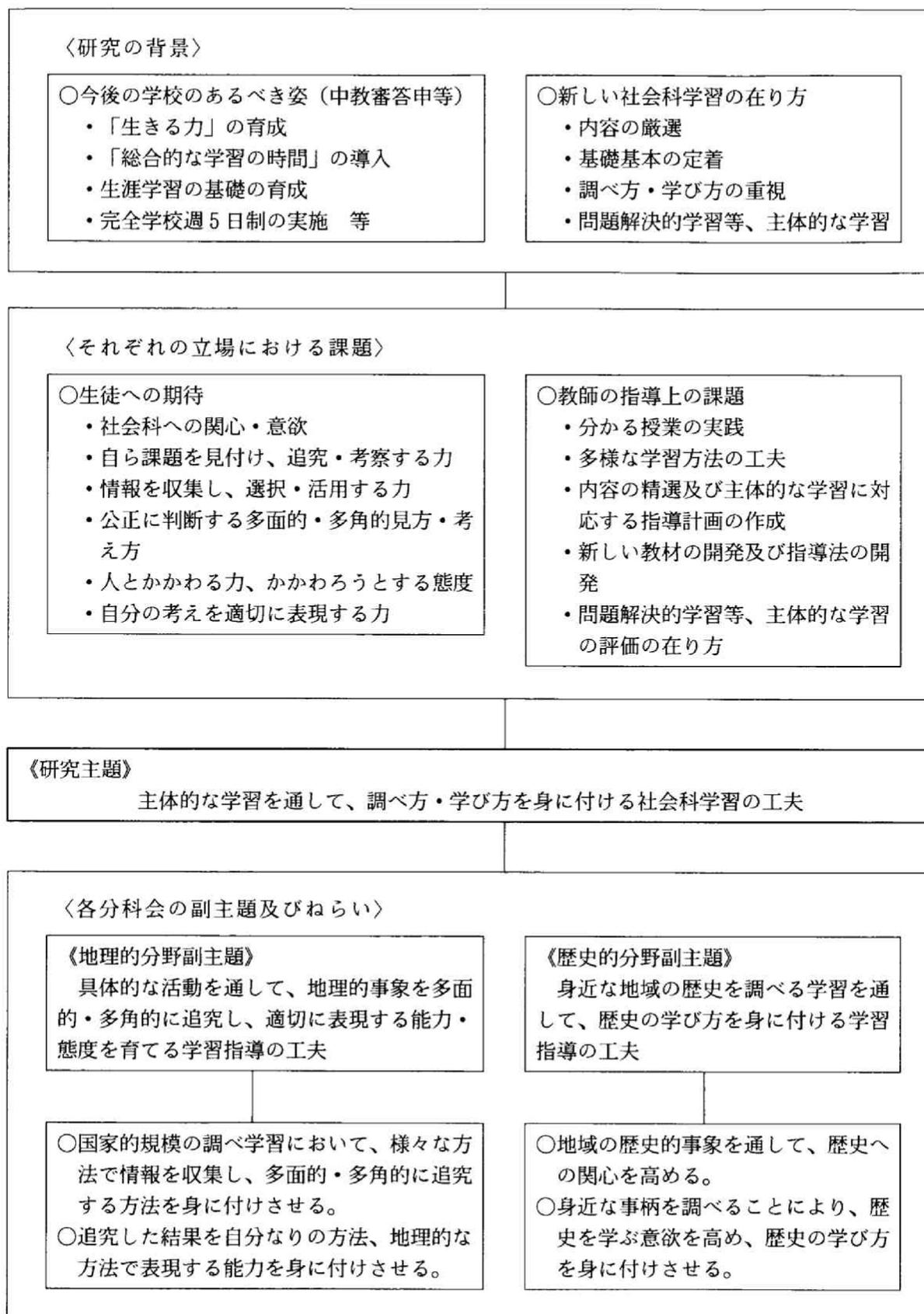
◎ 世話人      ○ 副世話人

担当 東京都立教育研究所教科教育部指導主事 赤坂寅夫

# 目 次

目 次	1
I 全体の研究構想図	2
II 研究主題及び主題設定の理由	3
III 地理的分野の研究内容	3
1 地理的分野の研究副主題及び副主題設定の理由	3
2 検証授業A・单元名「中華人民共和国」	4
(1) 单元名	4
(2) 单元設定の理由	4
(3) 单元の目標	4
(4) 学習指導計画	4
(5) 指導上の留意点	5
(6) 本時の展開	6
(7) 授業の概要	7
(8) 授業の考察	8
3 検証授業B・单元名「ドイツ連邦共和国」	10
(1) 单元名	10
(2) 单元設定の理由	10
(3) 单元の目標	10
(4) 学習指導計画	10
(5) 本時の展開	11
(6) 授業の考察	14
4 地理的分野の研究のまとめと今後の課題	15
IV 歴史的分野の研究内容	16
1 歴史的分野の研究副主題及び副主題設定の理由	16
2 検証授業C・单元名「葛飾の近代化の歩み」	17
(1) 单元名	17
(2) 单元設定の理由	17
(3) 单元の目標	17
(4) 学習指導計画	17
(5) 本時の展開	19
(6) 授業の概要	19
(7) 授業の考察	21
3 検証授業D・单元名「身近な地域の歴史－本郷・湯島界限－」	22
(1) 单元名	22
(2) 单元設定の理由	22
(3) 单元の目標	22
(4) 学習指導計画	22
(5) 本単元の指導の流れ	23
(6) 資料	23
(7) 単元の評価	23
4 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題	24

# I 全体の研究構想図



## Ⅱ 研究主題及び主題設定の理由

### 研究主題

主体的な学習を通して、調べ方・学び方を身に付ける社会科学習の工夫

この度改訂された新学習指導要領における中学校社会科の基本方針の一つとして「学び方を学ぶ学習」の充実があげられている。「学び方を学ぶ」とは、学習の過程を重視し、学習の過程において調べ方や学び方、社会的事象の見方や考え方を身に付けることを意味する。

これまでの社会科教育では、「知識偏重」とか「詰め込み教育」という語句に代表されるように、学習の経過より学習の結果に重点を置く指導がなされがちであった。いかに多くの知識を正確に記憶しているかが社会科の学力を測る基準として重視され、ペーパーテストによる評価が中心とされてきた。その結果、生徒たちの学習は受け身がちになり、応用力や発展性の乏しい知識を定着させるために苦勞し、社会科が嫌いになる生徒も少なくなかった。また、そのようにして苦勞して身に付けた知識の中には、変化の激しい現代社会においては陳腐化し、役に立たなくなるものも出てきて、知識中心の学習の限界が見えてきた。

この変化の激しい社会に主体的に生きていくためには、常に新しいものを学び続けていく資質・能力・態度が不可欠である。そのためには、基礎・基本をしっかりと身に付けた上で、自分に必要な知識や技能を獲得していく生涯学習の基礎としての技術を身に付けていくことが重要である。

主題として設定した「調べ方・学び方を身に付ける社会科学習」とは、そのような技術を身に付けることを目的とした学習を意味している。ゆとりある学習環境の下、課題を自分で設定し、その課題を解決するために、様々な資料・情報を様々な方法で収集し、そこで得た情報を多面的・多角的に考察し、その結果をまとめたり、発表したり、互いの意見を交換し合ったりという過程を重視した学習によって公正な判断力を育成し、公民としての基礎的資質を培うとともに、社会科学習の「学び方を学ぶ」ことができると考え、この課題を設定した。

## Ⅲ 地理的分野の研究内容

### 1 地理的分野研究副主題及び副主題設定の理由

具体的な活動を通して、地理的事象を多面的・多角的に追究し  
適切に表現する能力・態度を育てる学習指導の工夫

従来 of 地理的分野の学習では、時間的な制約や指導のマンネリ化、また地誌学習が中心であったこともあり、学習の過程よりも学習した結果を優先した指導に偏りがちであった。本来、地誌学習においても「調べ方・学び方を身に付ける」ための過程を重視すべきであったが、知識や語句についての調べ学習に終始してしまったり、調査の時間をあまり確保せず不十分なままに発表させて、まとめのプリントで内容の補足をするといった指導になりがち傾向があった。

しかし、今回の学習指導要領の改訂において、従来 of 項目を再編成し、「地域の規模に応じた

調査」という項目が新設され、「調べ方・学び方を身に付ける」過程を重視した学習が展開されることになった。新しい地理的分野の目標の一つに「地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に関する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的、多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力・態度を育てる」ことがあげられている。

これからの地理的分野における学習は、生徒の興味・関心を生かし、自ら課題を設定し、様々な資料や情報を収集し、整理して多面的・多角的に追究して地域的特色をとらえ、自分なりの方法、地理的な方法で表現する学習が求められている。

そこで今年度は、「地理的分野における学び方」を学ぶために、学習過程を重視し、上記のような副主題を設定した。副主題の内容を整理すると、私たちが特に大切だと考えた能力・態度は以下の3点に集約される。

- ① 様々な方法で主体的に情報を収集し、活用・整理する能力
- ② 追究した結果について自分なりの方法、地理的な方法で表現する能力
- ③ 情報を収集したり表現したりする過程で、人と積極的に関わり、人との関わりを通して自らの考えを工夫・発展させていこうとする態度

## 2 検証授業 A

### (1) 単元名 「中華人民共和国」

(新学習指導要領 (2) 地域の規模に応じた調査 ウ 世界の国々)

### (2) 単元設定の理由

中国についての生徒の興味・関心は、人口や食文化、我が国につながる歴史・文化など、多種多様である。そこで、本単元では生徒自らが様々な情報を収集し、それを整理し、多面的・多角的に追究することから地域的特色をとらえさせる方法を考えた。

### (3) 単元の目標

- ア 中国についての学習課題を自ら設定し、追究することで、中国に関する関心を高め、生徒が主体的に学習する態度を育てる。
- イ 中国についての調べ学習を通して、地図・統計・書籍・ネットワークなどからの情報を適切に選択し、活用する能力を身に付けさせる。
- ウ 地図や図表・グラフなどの資料を利用して発表することで、地理的な表現力を身に付けさせる。
- エ 班や学級で学習の成果を発表する活動を通して、まとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。
- オ 中国についての学習課題を自ら設定し、追究する学習を通して、中国の国家的規模の地域的特色をとらえさせる。

### (4) 学習指導計画 (8時間扱い)

時	学習内容	学習活動	支援・表現活動の工夫	資料等
第1時	イメージづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な中国に関係するものを発表する。(実物)</li> <li>・日本と中国との貿易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なものの中に、中国製のものがあることを気付かせる。</li> </ul>	中国に関係あるものワークシート

時	学習内容	学習活動	支援・表現活動の工夫	資料等
第2時	中国についての基礎理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口、面積、都市、自然などを、ビデオ教材を利用して、学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口、面積、都市、自然など基礎的な資料を読みとらせる。</li> </ul>	地図帳・資料集・ビデオ・ワークシート
第3時	調べ学習の説明 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>6つの学習項目の中から1つ選択し、学習班を編成する。</li> <li>自分の学習課題を設定し、カードに記入する。</li> <li>教科書や資料集・地図帳など身近な資料で調査する。</li> <li>今後の調査方法や内容を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習班で、各自の学習課題が重複しないように調整する。</li> <li>学習課題設定の理由を明確にさせ、結果を予想させる。</li> <li>課題解決できるように図書の整備などを行う。</li> </ul>	地図帳 資料集 ワークシート 学習課題の掲示用カード
第4・5時	調べ学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室の書籍などで、学習課題について調べる。</li> <li>わからない点を質問カードにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習が適切に進むように、図書館司書や公立図書館の協力を得ながら支援する。</li> </ul>	図書室 質問カード
第6時	調べ学習「中国の方に直接聞いてみよう。」(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国の方に来校していただき、質問に答えてもらう。</li> <li>学習課題について調べる。</li> <li>中国の方に質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市国際交流センターの協力を得て、中国の方から話をうかがう。</li> </ul>	図書室
第7時	調べ学習のまとめ 発表準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>画用紙パネル3～5枚で、調べたことをまとめる。(3分程度の内容)</li> <li>学習班で発表の練習を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表・地図やクイズなどを利用して、調べたことのまとめや発表を工夫させる。</li> </ul>	図書室
第8時	発表 相互評価 自己評価 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習班をいくつかのグループに分けて、学級で発表する。</li> <li>自己評価をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の中で、発表の相互評価をさせる。</li> </ul>	評価用紙

(5) 指導上の留意点

ア 学習課題の設定と学習班の編成（興味や関心をどのように引き出すか）

- 右の6つの学習項目の中から1つを選択させて、学習班を編成する。
- 各自の学習課題は学習項目の内容にそって自由に設定する。ただし、学習班の中では、重複しないように調整させる。
- 8人以上の学習班ができた場合は、学習項目を分割し、学習班を再編成する。

- 学習班では、資料の収集・まとめや発表の準備にあたって、お互いに協力するように指導する。

- 生活・習慣・文化を調べよう。
- 自然・地形・気候を調べよう。
- 農業・工業・資源を調べよう。
- 人口問題・民族・地域を調べよう。
- 政治・経済・貿易を調べよう。
- 19～20世紀の中国の歴史を調べよう。

イ 調べ学習について（調べる内容をどのように深めていくか）

- ・学習課題が設定できた段階で、はじめに教科書・地図帳・資料集など最も身近な教材で調査活動を行い、学習課題の結果を予想させる。
- ・図書館司書や公立図書館の協力を得て、図書館内の図書の整備をすすめる。
- ・市国際交流センターの協力を得て、中国の方から直接話を聞いたり、質問する機会をつくる。

ウ まとめ・発表について（地理的な資料を活用し、発表を工夫できるか）

- ・各自、画用紙3～5枚程度に内容をまとめる。まとめは図表・統計資料・地図などをうまく活用させる。クイズを入れるなど、発表内容を工夫させる。
- ・発表については、班をいくつかのグループに分けたポスターセッション形式で行い、相互に発表内容の評価をさせる。

(6) 本時の展開

	学習内容・学習活動	教師の支援・表現活動の工夫	資 料
全体での活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歓迎の言葉（社会科係）</li> <li>・中国人ゲストティーチャーの紹介とあいさつ</li> <li>・いくつかの質問に答えてもらう。 〔学習課題についてのものではなく、一般的な質問を中心に〕</li> <li>・今日の授業の進め方の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の方と適切なコミュニケーションがとれるよう促す。</li> <li>・前時に『質問カード』を書かせておき、全体の場で、いくつかの質問を取り上げる。</li> <li>・学習班ごとの活動が行えるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国人ゲストティーチャーの自己紹介文</li> <li>・地図帳</li> <li>・質問カード</li> </ul>
学習班での活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習班ごと(10名程度)に、各個人が設定した学習課題の中間発表を行う。(図書室のカウンター内) 〔画用紙パネル2～4枚を使用する画用紙パネルでは、地図・統計・写真・イラストなどを利用する。〕</li> <li>・学習課題設定の理由・調べ学習を通してわかったことも発表する。また、調べてもわからなかったこと、理解できなかったことも発表する。</li> <li>・外国人ゲストティーチャーに発表を聞いてもらい、アドバイスを受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で調べた内容を、自分の言葉でわかりやすく発表するように指導する。</li> <li>・画用紙パネルでは、文字情報を少なくして、視覚的にアピールさせるように工夫させる。</li> <li>・学習課題について整理させるとともに、課題設定や調査方法・まとめ方の問題点を指摘する。</li> <li>・外国の方とのコミュニケーションの取り方について学ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙パネル</li> <li>・ワークシート</li> <li>・参考資料</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を行っていない班は、班の中での発表の練習や個人の調査活動・まとめ作業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生徒の発表を見聞することで、内容や表現方法を工夫させる態度をつくらせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙パネル</li> <li>・ワークシート</li> <li>・参考資料</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチフレーズ（見出し・タイトル）を作成する。</li> <li>・外国人ゲストティーチャー（2名）に直接話を聞く。</li> <li>・お礼の言葉（社会科係）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容の中で、自分が一番中国の特色だと考えることがらをキャッチフレーズとして、自分の言葉で適切にまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙パネル</li> </ul>

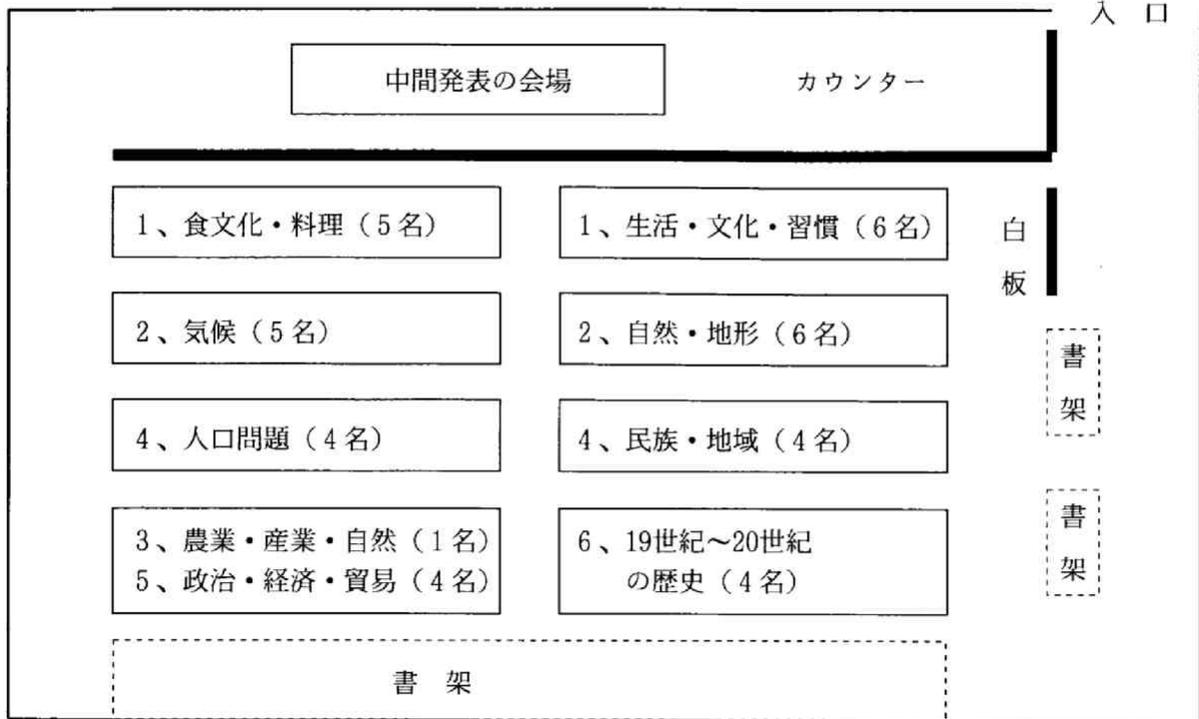
#### ◇評価の観点

- ア 地図・統計資料などを活用して、地理的に、視覚的に表現することができたか。
- イ 発表内容を自分の言葉で表現することができたか。
- ウ 外国人とコミュニケーションをとろうとする態度ができたか。
- エ 他の生徒の発表を見聞したり、キャッチフレーズづくりを通して、自分の発表内容や調べ方を工夫しようとする態度ができたか。
- オ 調べた内容から、中国の地域的特色をキャッチフレーズとしてまとめることができたか。

#### (7) 授業の概要

- ア 各生徒の興味・関心に応じて学習項目を選択させたため、人数にかたよりが生じた。このため、下記の通り、一部の班は分割し、一部の班は統合し、8班とした。
  - ①生活・文化・習慣を調べよう（11名）→食文化とその他の2班に分割した。
  - ②自然・地形・気候を調べよう（11名）→気候と自然・地形の2班に分割した。
  - ③農業・産業・地域を調べよう（1名）→⑤と統合した。
  - ④人口問題・民族・地域を調べよう（8名）→人口問題と民族・地域の2班に分割した。
  - ⑤政治・経済・貿易を調べよう（4名）→③と統合した。
  - ⑥19世紀～20世紀の歴史を調べよう（4名）
- イ T市国際交流センターより紹介をうけた市内在住の中国人ゲストティーチャー2名をお迎えし、生徒の発表を聞いてもらい、感想や意見を伺った。
- ウ 中間発表を行っていない班は、各自の調査活動・まとめ・キャッチフレーズづくりなどの作業を行う時間にした。
- エ 授業全体を図書室での活動を中心に行い、図書の検索や調べ学習については図書館司書（1名）の協力を得た。また、校内の中国関係の蔵書が少ないので、T市の公立図書館から中国に関係する図書（約50冊）を借り受けて、調べ学習で利用した。

学習班の図書室配置



〈ゲストティーチャーの紹介〉

〈グループでの討論〉



(8) 授業の考察

今年度の研究課題はの一つは、「調べ方・学び方を身に付ける」ための方法論的過程を重視していることである。そこで、本検証授業では以下の2点の実施を主眼とした。第一は、中間発表を取り入れ、「他者の調べ方を知る」ということが、自らの「調べ方」にフィードバックできるかどうか。第二は、「自らの言葉で表現し、発表する」ことである。

#### ア 「調べ方」についての考察

現在、「調べる」ことを主眼に置いた授業形態は、多くの教師にとって暗中模索状態である。実際には「調べる」ことに何時間かかるか、どの国、地域を調べるべきかなど、考えなければならない点が多い。学年、学校事情など、ケースバイケースであろう。検証授業を行った学校は、司書教諭が配置され、図書館も整備され、また公立図書館の協力も得られて、調べ学習には好条件が整っていた。従って、図書室や図書館はじめ、インターネットや家族に取材したりなど、様々な方法で多様な情報・資料を収集し、活用がされていた。また、本実践のねらいである地図やグラフを活用したまとめについても、発表のために分かりやすくというねらいが明確であったので、調べ学習の目当てとして有効であった。

しかし、本時の授業では、発表と調べ学習という形でグループを二つに分け、発表はこれまで調べてきたことを中間発表としてゲストティチャーである中国の方に聞いていただき、更に調べて分からなかったことを質問するという形式で行ったため、調べ学習を続ける生徒と中間発表を行う生徒を分けたことで、本時の授業のポイントがぼやけ、散漫になったのは残念であった。

#### イ 「発表の仕方」についての考察

「発表の仕方」という点で、文献などの既存の情報を単純に引き写し、その棒読みで終える「従来の発表」からいかに脱却するかも、検証のポイントであった。本実践では、あくまで中間点ではあるが、副主題に則った「こだわり」をもてたのではないか。発表のための資料を作成する際、自分が調べたものを「地図化する」、「グラフ化する」、「イラスト化する」作業は、自分の中で内容を咀嚼しなければできないことである。その意味において「自分の考えを自分の言葉で表現する」という本研究のねらいがある程度達成されたと考える。

同時に課題も残った。仮に自分とは異なる他者の調べ方を学んだことで、自分の学び方を軌道修正しようとした場合、途中まで作成しまとめたものを、どのように替えていけばよいのかという点である。

本実践においては、「調べ方」、「発表の仕方」、そして「他者の調べ方から自分の調べ方を学ぶ」という、教師側の求めるものが多かったことから、特に、「他者の調べ方から自分の調べ方を学ぶ」という点に関しては、50分という時間的な制約もあり、「何を調べているか」という途中の段階を発表するに留まり、当初の目的の一つであった「自分の調べ方を他者に伝える」を果たしたとはいえない。生徒への指示が十分にとれず、曖昧になった点も反省点として挙げられた。

しかし、今回の検証授業は、あくまでも中間点、途中経過を確認したものである。「発表することを前提とした調べ学習」を実現するためのプロセスを示したものといえる。今後の調べ学習においては、自分が調べた内容をビジュアル化したデータでどのようにアピールできるか、発表の仕方、まとめ方にこだわりたい。

### 3 検証授業B

#### (1) 単元名 「ドイツ連邦共和国」

(新学習指導要領 (2) 地域の規模に応じた調査 ウ 世界の国々)

#### (2) 単元設定の理由

「ドイツ」は1990年、世界が注目する中、「東西統一」を成し遂げ、国の面積もほぼ日本と同じくらいになった。また、近年のEU諸国統合の動きの中でもその中心的役割を果たし周辺の国々との結びつきが強い。鉱工業の面では古くからルール工業地帯のある国として栄えて来た。反面、「環境問題」も深刻で、真剣に取り組んでいる。そういう点では日本も同じ工業国として学ぶべき点が多い。日本とのつながりも深いので情報も多く、生徒の関心も高いことから、「主体的な学習を通して調べ方・学び方を身に付ける学習」として適切であり、生徒の興味・関心を生かした課題を設定し、追究する学習方法を考えた。

#### (3) 単元の目標

- ア. 各自がドイツに対して抱いた興味・関心から適切な学習課題を設定し、地理の学習として発展することができるようにする。
- イ. 調べ学習を進めるに当たって、地図帳や資料を有効に活用することができるようにする。
- ウ. 各自が調べた内容について、一枚の地図にまとめて表現する力を身に付けさせる。
- エ. 各自がまとめた内容について、自分のことばで表現できるようにする。
- オ. グループ発表で他の人の話に耳を傾け、自分のものにしようとする態度を身に付ける。
- カ. ドイツについて、自ら課題を設定し、追究する学習を通して、ドイツの国家的規模の地域的特色をとらえさせる。

#### (4) 学習指導計画（8時間扱い）

時	学習内容	学 習 活 動	表現活動の工夫	資 料
第1時	・EU諸国の概観 (基礎理解)	・EU諸国の特徴をつかむ。	・ヨーロッパ諸国について知っていることをあげる。	・プリント No.1 ・ビデオ
第2時	・イメージづくり ・学習課題の設定	・ドイツに関するイメージづくり ・学習課題の設定	・各自、ドイツについてのイメージや知っていることを発表する。	・プリント No.2
第3時	・グループ分け ・学習の進め方 ・調べ学習	・興味・関心に基づくグループ分け。 ・自分の設定した課題について地図にまとめる。	・グループ内で自分の学習課題を説明する。 ・地図にまとめる時、絵やグラフを使って見やすくまとめる。	・プリント No.3 地図帳 資料集
第4時	・調べ学習 ・地図の完成	・地図を作ってみてわかったこと、気付いたことなどをまとめる。	・自分で考えたことをまとめる。	・プリント No.3
第5時	・グループ内の小発表	・自分の作りあげた地図をもとにわかったことを小グループ内で発表する。	・自分のことばで表現する。	・プリント No.3

時	学習内容	学 習 活 動	表現活動の工夫	資 料
第6時	・再構成	・グループ内の小発表の結果、共通点・相違点を話し合う。 ・本発表に向けて、プリントNo.4の手順でグループとしての発表にまとめあげる。	・まとめ方が文字ばかりにならないように注意する。 ・自分たちの内容に合う「題」をつける。	・プリントNo.3 ・プリントNo.4
第7時	(本時) ・発表	・グループごとにまとめたものを発表する。 ・グループごとの発表を聞き評価する。	・他のグループの人たちにわかるように工夫する。 ・自分たちのことばで表現する。	・プリントNo.5
第8時	・まとめ ・新たな課題の発見	・新たな疑問点の整理。 ・自分の中でドイツについてわかったことをまとめる。	・自分でもう一度ドイツのキャッチフレーズをつける。	・プリントNo.6

#### ◇単元の評価

- ア. 各自がドイツに対して抱いた興味・関心から、地理的な見方・考え方の学習に発展させることができたか。
- イ. 調べる学習を進めるに当たって適切な資料を選択することができたか。
- ウ. 調べた内容について上手に地図に表現することができたか。
- エ. 各自がまとめた内容について自分のことばで表現しようとしたか。
- オ. グループ発表で、他の人の話に耳を傾け、自分のものにしようとしたか。
- カ. ドイツについて自分で調べることと他のグループの発表を聞くことによって、ドイツの地域的特色をとらえたか。

#### (5) 本時の展開

##### ◇検証授業のポイント

- ① 自分たちの選んだ学習課題について地図や資料をもとに調べ、考えて、自分なりの地図に表現することができたか。
- ② 発表活動を通じ、自分のことばで表現することができたか。
- ③ 発表を聞く活動を通じ、疑問点を質問するなどコミュニケーション能力が育ったか。
- ④ 自分たちの調べた内容についての的確に表す「題＝キャッチフレーズ」を付けることができたか。

	学 習 活 動	教師の支援・表現活動の工夫	資料等
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループごとにテーマに沿って調べ、まとめてきたことを発表する準備をする。(各グループ、前半・後半で発表・説明する側と聞く側とに分かれる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループごとに発表活動をする場所を十分確保できるように配慮する。</li> <li>発表は5分以内とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示用パネル</li> <li>各班の発表用模造紙</li> <li>現物資料</li> <li>写真資料</li> <li>パンフレット</li> <li>ワークシート</li> </ul>
グループごとの発表活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示用パネルや机上を使って、各グループごとにまとめたものや用意したものを示して発表する。</li> <li>時間を区切って発表する人を決める。それ以外の時間は他のグループの発表を聞きに行く時間とする。 〈主な発表グループ〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>自然・環境</li> <li>観光</li> <li>交通</li> <li>農業</li> <li>工業</li> <li>暮らし</li> </ul> </li> <li>〈予想される発表活動〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>模造紙にまとめて発表する。</li> <li>現物を持ち寄って説明する。</li> <li>観光パンフレットなどを並べて説明する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズ等を入れて、分かりやすく楽しめる発表にさせる。</li> <li>TTを活用し、半々に分かれてそれぞれのグループの発表がスムーズに行われるよう、支援する。</li> <li>時間内で全ての生徒が自分たちの発表活動を行い、また、他のグループの発表を聞いて回れるように配慮する。</li> <li>ワークシートを準備する。</li> <li>記入しやすいように、記入のためのコーナーを作る。</li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの発表について、ワークシートに自己評価・相互評価を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループに対する質問がないか確認する。</li> </ul>	

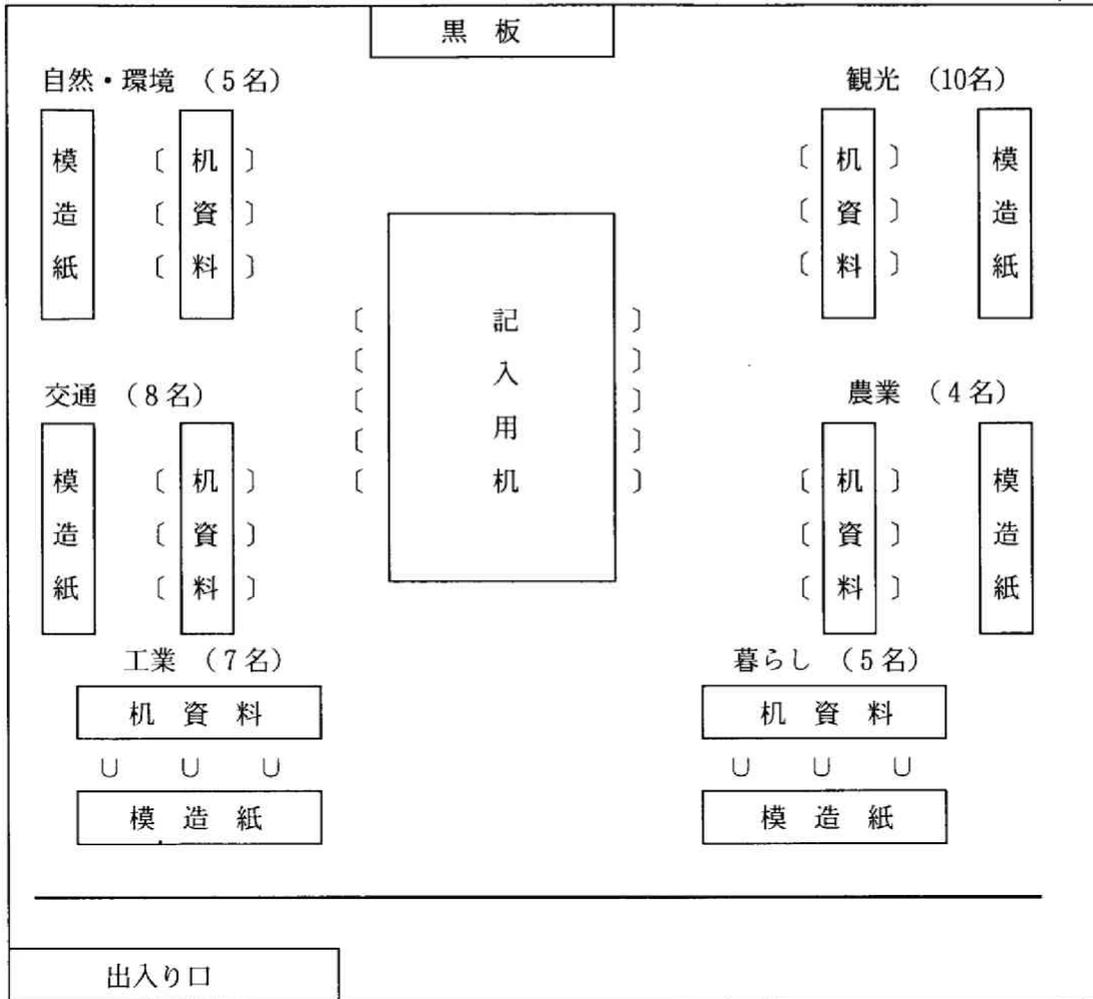
◇本時の評価

- 発表活動を通じて、自分のことばで的確に表現することができたか。
- 他のグループの発表を聞く活動を通じて、ワークシートに要点などを記入し、自分のものとして吸収することができたか。



〈交通グループの発表〉

◇会場図



〈全体の様子〉



(6) 授業の考察

ア 自分たちが選んだ学習課題について、地図や資料をもとに調べ、考え、自分なりに地図に表現することができたか。

今回の検証授業では、最初に学習テーマを設定する際に、教科書・地図帳・資料集から読み取れるものに限定してみた（第1時参照）。間口を最初から「地図」ということに限定した結果、生徒自身が身近な生活環境の中から適切な資料を収集・選択することができ、自ら資料を集めようとした意欲が見られた。また、全体指導計画そのものも間延びをせずに、メリハリにあるものとなった。さらに、発表内容を地図にまとめるという作業を行ったため、どの生徒も地理的な表現の仕方を学ぶことができた。

イ 発表活動を通じ、自分の言葉で表現することができたか。

ポスターセッション形式を参考にした発表形態であったため、全員自分たちで調べた内容を発表する時間と機会が与えられ、調べた内容についてより自分の言葉で話そうと努力をしていた。また、地図以外の展示物を自分の家などから持参し、聞き手を引きつける努力を行っていた。話すだけでなく、展示物を通して表現する方法もあり、生徒のプレゼンテーション能力は高まったと考えられる。

また、発表者は、同じ説明を数回、違う聞き手にするため、前の発表でわかりづらかった表現を変えたりして、次第に発表内容に工夫をする班も多く見られた。こうした表現方法の工夫は、自分のことばで表現しようとする現れと考えられる。

また、クイズ形式を取り入れた発表が多かった。このことは、クイズを考えること自体が調べて得た知識を自分の言葉で表現しようとした表れと思われる。ただ、クイズの質問内容や選択肢に教師の指導助言が必要である。

ウ 発表を聞く活動を通じ、疑問点を質問するコミュニケーション能力が育ったか。

ポスターセッションを参考にした発表形式の良さは、発表者と聞き手との距離の近さである。実際、生徒たちは、積極的に意見交換や質問を行っていた。こうした相互の交流は、楽しい雰囲気を生み、生き生きと個性を生かしながら活動する場面を作る。このような場数を数多く設定することによって、主体的な学習の深化が生まれると考えられる。

しかし、今回のようなポスターセッションを参考にした発表形式は、教室よりも広い空間と50分の授業時間に制約されない時間を必要とする。また、生徒の言葉による発表に対する評価の在り方も課題である。

エ 自分たちの調べた内容について、的確に表す「題」をつけることができたか。

この発表を通して、自分たちが調べたドイツ像と、聞き手から質問されたことに答えることによりさらに深く知ることができたドイツ像とがうまく組合わされれば、学習課題に的確な「題」をつけることができると思われる。また、聞き手に回ったときに得たドイツ像とがミックスされたことによる再構築により多面的・多角的な理解ができると思われる。

〈生徒が考えた「題」の例〉

- |                                     |                                 |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 進歩する国ドイツ      | <input type="radio"/> 技術先端の国ドイツ |
| <input type="radio"/> 自然とともに生きる国ドイツ | <input type="radio"/> 地道な国ドイツ   |

#### 4 地理的分野の研究のまとめと今後の課題

##### (1) 研究のまとめ

調べ学習の実践は、以前より行われてきた。しかし、ただ調べて終わりであったり、発表して終わりであったりした。その中では、生徒自身が調べたことや学んだことを十分に理解・活用することが少なかった。また、調べ学習の結果のみを重視し、経過を軽視しがちな学習指導が多かった。そのために、しっかりと調べ方や学び方が生徒自身の力(能力)としてなかなか身に付いていかない傾向がみられた。だからこそ本研究では、調べ方や調べ方をしっかりと身に付けさせることを重視した。

##### ① 課題設定の仕方

生徒に自ら課題を設定させるために、他の生徒の課題も参考にするという方法を用いた。これは、他とのかかわりにより自分の学びを振り返り、学習を深化させることでより良く学ぶことができると考えたものである。

##### ② 適切な表現活動

ただ単に調べたという形だけで終わらせず、理解を深めさせるために、調べる途中段階でも表現活動をするという方法を用いた。自らの課題のテーマの適切な表現や学習したことのカッチフレーズ化などにより、自分の考えや思いを表現する力が深まった。また、まとめの段階で地図、グラフ、絵などビジュアル化することも重視した。これらによって、自分で調べたことを地理的に表現し、多面的・多角的に追究する調べ方、学び方が身に付いたと考える。

##### ③ 発表と新しい課題の発見

できるだけ自分の言葉で表現し、発表することを心掛けさせた。さらに、他の生徒からの質問を受けることで学習を深めさせることを考えた。また、発表や質問を受けること、他の生徒の発表を聞くという相互交流により、新たな興味・関心が生まれ、さらには新たな課題を見付けることができた。

##### (2) 今後の課題

調べ方・学び方を身に付けるために、地理的現象を多面的・多角的に追究し、それを具体的な活動を通して適切に表現する能力・態度を育てる学習指導を行うに当たり、その課題として、1時間の授業に多くのねらいをもった授業は困難であることが挙げられる。ねらいが課題設定なのか、自分の言葉で適切に表現することなのか、ビジュアル化することなのか等をはっきりさせることが必要である。多くのねらいをもったために、授業全体を通してポイントが定まらなかった。二つ目の課題として、調べる途中段階での表現活動をさせることで、授業の進度が遅れてしまうということである。計画のみにとらわれず時間をかけることも必要であろうが、限られた時間の活用を工夫しなければならない。また、図書室利用や地域の施設等の活用において、学校間に条件の格差があり、そのための工夫が必要であることも課題である。

## Ⅳ 歴史的分野の研究内容

### 1 歴史的分野研究副主題及び副主題設定の理由

身近な地域の歴史を調べる学習を通して、歴史の学び方を身に付ける学習指導の工夫

これまで歴史学習は暗記物という認識が根強く、覚えることが歴史学習のすべてであると考えている生徒も多く、学習を深めるということは、より詳しい歴史事象を覚えること、すなわち学習の深化は詳細化であるという認識が少なからずあった。しかし、第15期中央教育審議会第一次答申において「知識の教え込みになりがちな教育から自ら学び自ら考える教育へと教育の基調を転換する」と述べられ、また、教育課程審議会答申においては「歴史についての学び方や調べ方を身に付け、多面的な見方ができるようにすること」と述べられ、歴史学習の新しい在り方が求められている。

これらの動きを受けて新学習指導要領の歴史的分野において、内容の厳選と歴史の大きな流れを理解させるための内容の再構成を図るとともに、「我が国の歴史について関心のある主題を設定しまとめる作業的な学習」と「身近な地域の歴史を調べる学習」からなる「(1) 歴史の流れと地域の歴史」という大項目が新たに設定された。そのねらいは、歴史的分野の学習の導入として、我が国の歴史に関心ある主題でまとめる作業的な学習を通して、歴史学習への関心・意欲を高めることとともに、「身近な地域の歴史を調べる学習」では、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させること及び歴史の学び方を身に付けさせるという観点から設置されたものである。作業的・体験的、問題解決的な過程を重視した学習を取り入れることによって、生涯にわたって学び続ける能力や態度の基礎・基本を培うことを目的としている。

どの地域にもそれぞれの生活があり、それらの生活の中で創り上げられてきた文化があり、それに伴う様々な文化財や史跡が存在している。かつてその地域で生活していた人々が創り上げてきた生活様式や文化遺産に直接ふれることは、歴史学習への興味・関心を高め、自ら学ぶ意欲をも高めることに有効である。また、地域の歴史を我が国や世界の歴史と関連づけて考えることは、我が国の歴史に具体性や親近性をもたせるとともに、歴史を広い視野から考察し、歴史事象を多面的・多角的に追究し公正な判断力を育成することにもつながる。

以上のことから、上記副主題を設定し、研究を進めることとした。なお、本研究において育てたい能力・態度を次の4点と考えた。

- ① 身近な地域の歴史的な事象に関心を持ち、追究しようとする課題を設定する。
- ② 設定した課題に対して情報を収集し、整理・活用してまとめる。
- ③ まとめたことを自分なりの方法で表現し、発表する。
- ④ 学習した結果から身近な地域の歴史と我が国の歴史とのかかわりを考え、その時代的特色をとらえる。

## 2 検証授業C

### (1) 単元名 「葛飾の近代化の歩み」

(新学習指導要領 (1) 歴史の流れと地域の歴史 イ 地域の歴史)

### (2) 単元設定の理由

葛飾の近代化の歴史をひもとくと工業の発展や交通の発達にかかわる点が目につく。N中学校の学区域である葛飾区南部は、区内でも中小工場の数が大変多く工業地域に指定されているという特色を持つ地域であり、その歴史も我が国の近代化のあゆみと関連が深い事例も多く見られる。したがって、葛飾の近代化のあゆみを学習し、考察することによって我が国の歴史への理解が深まるということが考えられる。

自分たちの生活の舞台の歴史を学ぶことから日本の歴史の大きな流れを理解し、より興味深く歴史と向き合える態度を育てたいとこの単元を設定した。

### (3) 単元の目標

ア 葛飾の近代化を学ぶことによって、日本の近代化を具体的イメージとしてつかみ理解させる。

イ 適切な調査課題を設定し、主体的に学習する態度を身に付けさせる。

ウ 調べたことを発表する機会を通して、友人の調査内容やまとめたこと、調べ方や調べたことに対する考えを知ること、幅広い歴史の学び方を身に付けさせる。

エ 調査、発表などの作業学習や体験学習を通して歴史的事象を多面的・多角的にとらえ、認識する力を養わせる。

### (4) 学習指導計画 (8時間扱い)

	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点
第 1 時	〈導入〉 学習課題への意識づけ	① 文明開化と日本の近代化の要点を確認する。 ・明治に入ってからそれまでの日本と大きく変化したり、新たに誕生したような事柄をできるだけ多く挙げ、それらを項目別(産業、交通、通信、教育、生活等)に分類する。 ② ①と葛飾の関わりを認識する。 ・身近な地域でみられる事柄を挙げ、調査の対象物を考える。 ③ 調べ学習の説明。 ④ 葛飾の近代化という視点を持った上でこれから調べてみたいこと、疑問に思うことをワークシート①に記入する。 さらに家庭や地域の人などから話を聞いたりして、これからの調べ学習における調査の対象物を増してくることを宿題とする。	・教科書や資料集で確認しそれを色別で分類する。 ・発言が少ない場合 区副読本『かつしか』を参考にする。

第2時	<p>〈展開1〉 課題の決定 調べ方の検討</p>	<p>① 前時に各自が考えた事柄を班で出し合い、項目別に色画用紙にまとめる。</p> <p>② 班ごとに①を発表し、色画用紙を黒板にはる。</p> <p>③ ②の中から班のテーマと調査方法について検討。</p> <p>④ 決定したテーマと調べ方を班ごとに発表する。</p> <p>⑤ 各班の発表を参考に調べ方について再検討する。</p>	<p>・色画用紙の区分を明確にする。</p> <p>・班同士の重複は可</p> <p>・発表後テーマ変更は可とする。</p>
第3時	<p>〈展開2〉 調べ方、役割、行動計画の決定</p>	<p>① 前時をもとに調べ方を決定する。</p> <p>② ワークシート②、③にしたがって、班内の役割分担の確認と班員それぞれの行動計画をたてる。</p> <p>③ 現地調査（校外活動）をする際の諸注意。訪問先にアポイントメントをとる。</p>	<p>・ワークシート③の記入により歴史的視点を意識させる。</p>
第4・5時	<p>〈展開3〉 調べ学習</p>	<p>◎ 考えられる生徒の動き</p> <p>A 校内で文献の読み取り（教室、図書室ゾーン）</p> <p>B 校外（立石図書館、郷土と天文の博物館、関連施設聞き取りなど）</p> <p>調べたことをまとめるとともにワークシート②、③に実際にとった行動を記入する。</p>	<p>・各施設の方々の支援を仰ぐ。</p> <p>・まとめ方を意識して情報収集を行うようにする。</p>
第6時	<p>〈展開4〉 調査のまとめ</p>	<p>① 調査内容のまとめ 画用紙を使用してまとめを行う。</p> <p>② 調査の過程のまとめ これまでの調査過程が適切であったかを班で評価し、また調査後わかったことをワークシート③に記入する。</p> <p>③ 発表にむけての最終確認</p>	<p>・状況を見て適切に助言する。</p> <p>・役割を明確に。</p>
第7時	<p>〈展開5〉 発表と評価</p>	<p>① 班ごとに発表する。</p> <p>② 自己評価カード（ワークシート④）の記入。</p> <p>③ 発表を聞いて気付いたこと、わかったことをワークシート④に記入する。</p>	<p>・歴史的視点をもって記入する。</p>
第8時	<p>〈まとめ〉</p>	<p>① 調べ学習の体験や発表を通して、各自が感じた時代の様子やその流れを自分の言葉や絵で表現し、発表しあう。 例「散切り頭を叩いてみれば文明開化の音がする」 （短冊に書いて黒板にはりだす。）</p> <p>② ①を相互に観賞し、最終的なまとめとして、身近な地域の歴史が日本の歴史の流れと深く関わっていることを確認する。</p>	<p>・調べ学習の意義の確認。</p> <p>・郷土の歴史と日本の歴史の整理</p>

(5) 本時の展開例

① 検証授業のポイント

ア 調査テーマの設定にあたって、班の話し合い、各班の発表の中から、多くの観点、歴史的な視点があることに気付くことができるか。

イ 調べ方についても同様に、他の意見も取り入れながら多様な方法があることに気付くことができるか。

② 本時の展開（2 / 8時）

学習内容	学 習 活 動	教 師 の 支 援
班による話し合いⅠ	・前時及び宿題として各自が考えた調査対象を出し合い、班ごとにまとめ項目別に色画用紙に記入する。	・各自が考えた調査対象を大項目（産業、交通、教育、生活等）に整理し色分けして分類できるようにする。
班による発表Ⅰ	・班ごとに色画用紙を黒板にはり、話し合いの概要を発表する。 ・班のテーマ決定に向けての意識をもちながら、他の班の発表を聞く。	・調査対象を通して考察できる歴史的要因に気付くことができるように補足していく。
班による話し合いⅡ	・他の班の発表も参考にしながら、自分の班のテーマ決定を行う。まず、大項目を3つ程度選択し、さらにそれぞれについて具体的なテーマを決める。 ・決定したテーマについて調査方法を話し合いワークシート②に記入する。	・班員全員が自分の意見を述べた上で班としての意見をまとめるように助言する。 ・調査方法についてもできるだけ多くの意見を出し、検討できるように助言する。
班による発表Ⅱ	・班ごとに決定したテーマと調査方法を発表する。 ・調査方法の決定にあたって他の班の意見を参考にできるように聞く。	・「各班の発表」から参考にしたことや変化したことなどがわかる発表になるように助言する。
班による話し合いⅢ	・調査方法について追加、修正を加えながら再検討し、最終決定をし、ワークシート②に記入する。	・調査方法の最終決定は次回も時間をとることを告げる。また、進行がスムーズな班は役割分担もさせる。

③ 本時の評価

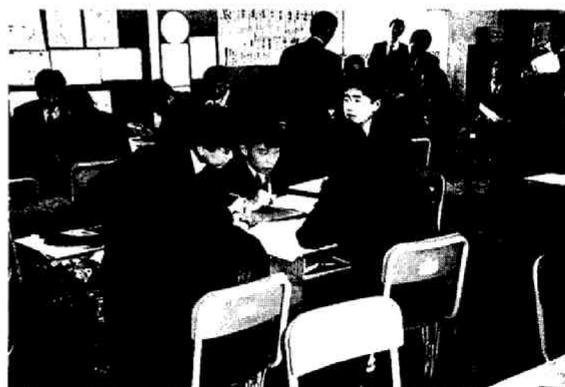
ア 歴史的な視点をもって考察し、テーマの設定に取り組むことができたか。

イ 話し合い活動、発表活動を通して、多様な考え方、学び方を知ることができたか。

(6) 授業の概要

ア 班による話し合いⅠ・班による発表Ⅰ

調べ学習におけるテーマ設定の第一歩として、各自が興味をもった「葛飾の近代化」について班の中で出し合った。前時に大項目（産業、交通、教育、生活等）を設定しており、それぞれに色画用紙に記入し、黒板に掲示した。それによって、個人の考え



〈全体の様子〉

をクラスのものとして共有した。さらに他者の考え方を認識、理解するきっかけとなった生徒もみられた。

#### イ 班による話し合いⅡ

先に発表されたテーマには抽象的なもの（例えば、鉄道の歴史、電話について、葛飾の昔の工場など）も多く見られたが、発表を聞き、さらに班で討議することによってより具体的なテーマ設定が見られるようになり、各班とも3～4種類のテーマに絞りこんでいった。それに伴って、調べ方についてもただ漠然と「図書館に行く」というようなものから、「どんな本が必要か」「教育資料館を訪ねよう」「地域のおじさん（文化財保護委員の方）に聞いてみよう」などという発展的な声も多く挙がってきた。

#### ウ 班による発表Ⅱ・班による話し合いⅢ

前述のとおり、話し合いの内容が有意義となった班が目立ち、調べ学習にむけて中味のある意見が出された。他の班の意見にもしっかりと耳を傾ける生徒が目立ち、話し合いがやや停滞気味であった班もそれなりの方向性を見い出していったようであった。

これまでの学習においては、他の班の意見や考えなどに対し「まねをしたくない、されたくない」という傾向がみられたが、今回の学習では「なるほど、その手もあるな」というように情報を共有するという態度が見られた。

最終的にこれまでの話し合いに追加、修正を加え、さらに役割分担や今後の予定にも触れながら話し合いを終えた。その際、教師の側から具体的に調べ、まとめる際に日本の歴史との関連やそれぞれの事柄の歴史的な意義について確認しながら作業をすすめるよう助言した。



〈班による発表〉



## (7) 授業の考察

### ア 調査対象の共有

身近な地域の歴史に対して、教師主導ではなく生徒自身の考えで項目を出し合ったので、主体的な動きが目立った。色画用紙を使うことによって、自分たちの興味・関心が教室の中で肯定され、類似した項目など学習内容を整理するのにも役立った。また、発表を行い、みんながどういう事を考えているかを理解し、自分の考えを再構成するのにも役立っていた。ただ、歴史学習として大項目の枠に入り切らなかった項目もあり（洋服、遊び、食べ物など）今後の総合的な学習の時間などで取り組んでいくとよいだろう。

### イ テーマ決め

個々に考えた調査テーマを、班の中で提示し、みんなが取り組みやすいテーマ作りに話し合いを深めていた。内容的にはあまり違いのないものなどについて、具体的でわかりやすい言葉で表そうと話し合いを深めていた。また、決まったテーマをどのように調査していくかを班で話し合ったが、図書館や教育資料館、地域の文化財保護委員の方に聞いてみようなど様々な調査方法が出された。地域的にも長く生活している方々が多い地域なので、保護者を通じて適切な人材を発掘する工夫などが必要と考えた。

### ウ 調査方法の発表

テーマを決定し、ワークシートに整理してまとめているので、発表はスムーズに行われた。明治以降、葛飾の近代化は我が国の工業の発展や交通の発達に関わる事が多く、実際に今も残っている工場などもあり、調査方法でも、足を運んで質問するというものが多かった。調査を行うにあたって、ワークシートで日時や調査内容などを具体的に設定しているので、他の班の生徒もスムーズに理解していた。調査方法は、他の班と重複するものもあったが、オーソドックスな方法については共有させていきたい。また、多くの班が、地域の人材に目を向けていたので、調査のための人脈探しも行わせていきたい。

### エ 調査方法の追加、修正

学習を深めるにつれて、生徒の学習意欲も高まり、中身のある意見が出始めた。このため、他の班の意見にもしっかりと耳を傾ける生徒が増え、他の班の発表を土台にして、自分たちの調査方法を修正し始める班も出てきた。調査対象が異なることが効果を出し、お互いに調査方法を共有することに違和感をもたなくなっていた。この点は、従来の相対評価による競争意識を取り除き、個々のがんばりの過程を認める絶対評価的対応だからこそ変わっていったのであろう。今回は、班での取り組みだが、様々な学習を重ねていく中で、個別テーマ別の学習も可能になっていくだろう。

### オ 今後に向けて

ここでは、生徒の家庭の大半が地元の工場に関係した生活という背景から、葛飾区の近代化を調べることで、日本の近代化を具体的に「絵になるように」イメージ化することをめざしている。そのためにも多岐にわたる調査方法で情報を収集するだけでなく、地域の人々の生の声を聞くことにより、さらにその時代のイメージをより鮮明にすることができるだろう。

### 3 検証授業D〔2月2日発表会当日、授業実践予定〕

#### (1) 単元名 「まちの歴史を探る ―文京区本郷・湯島界限―」

(新学習指導要領歴史的分野 (1) 歴史の流れと地域の歴史)

#### (2) 単元設定の理由

文京区は史跡・文化財などの文化遺産が豊富であり、また文人が多数居住していた地域で、文学作品の舞台として様々な場所が取り上げられている。日常生活の中で何気なく通り過ぎている「まち」もあらためて自分の足で歩き、目で確かめることで「まち」の伝統が残る部分や新しく変化してきた部分など新しい発見に気付くことができる。

自分が生活する地域の歴史を調査する活動を通じて、自分との関わりの中で歴史を考え、歴史学習への興味・関心を高め、さらに、これを基盤として我が国や世界の歴史に視野を拡大し、大きな人類の歴史を学んでいくためのきっかけとしてこの単元を設定した。

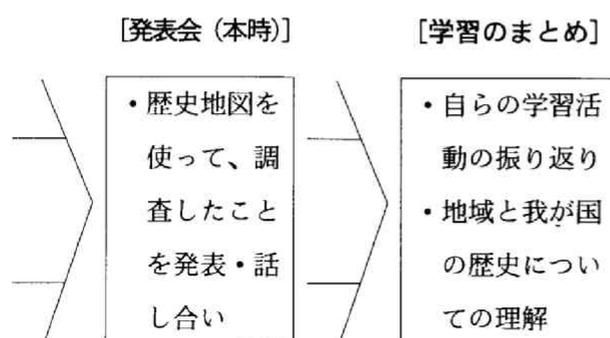
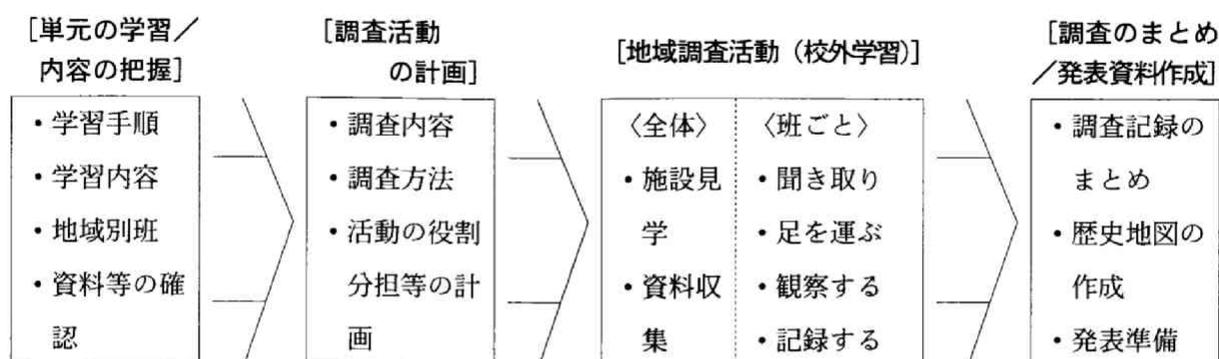
#### (3) 単元の目標

- ① 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、歴史的事象の学び方・調べ方を身に付けさせる。
- ② 地域社会の一員として、地域の歴史を具体的なものとして実感し、地域や人々に対する関心・理解を深めさせる。
- ③ 調査対象を自ら設定し、主体的に学習したり考えたりする力を育成する。
- ④ 地理的分野との関わりを工夫しながら、多面的・多角的に考察する能力を育成する。
- ⑤ 発表活動を通して友人の調査内容や考えを知ること、表現力や判断力を育てる。

#### (4) 学習指導計画（10時間扱い）

- 第1時 学習内容の概観（イメージづくり）
- 第2時 調査対象・調査方法の検討
- 第3時 地域施設の見学「文京ふるさと歴史館」（校外学習①）
- 第4時 調査にむけての準備
- 第5時 調査活動（校外学習②）
- 第6時 調査活動（校外学習③）
- 第7時 調査のまとめ（歴史地図作り）
- 第8時 発表準備（歴史地図作り）
- 第9時 発表会
- 第10時 活動をふりかえって

(5) 本単元の指導の流れ



地域調査記録カード

年 組 氏名 \_\_\_\_\_

調査場所	<input type="text"/>	<input type="text"/>
調査対象	<input type="text"/>	<input type="text"/>
調査 記録	<input type="text"/>	

(6) 資料

- ①副読本「わがまち文京」
- ②2500分の1地図（東京都市計画局）
- ③本郷・湯島界限地図
- ④「THE文京区」「文京のあゆみ」等
- ⑤ワークシート
  - ◇地域調査計画カード
  - ◇地域調査記録カード
  - ◇調査・発表の評価カード 等
- ⑥ゲストティーチャー  
（地域在住・地図作りアドバイザー）

(7) 単元の評価

- ①地域の歴史の調査を通して、地域や人々に対する関心や理解を深めることができたか。
- ②地域の歴史に対して興味・関心をもち、主体的に調べたり、学んだりする方法を身に付けることができたか。
- ③調査したことを整理、考察し、表現する能力を育成することができたか。
- ④地域の歴史の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を理解することができたか。

#### 4 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題

##### (1) 研究のまとめ

###### ① 「身近な地域の歴史を調べる学習」をどの時代で取り扱うか

本研究では、「適切な時代設定」について地域の特性を生かしながら2つの方向性を示すことができた。その1つは、《過去から現在へ》という視点である。検証授業葛飾区の事例では、明治時代という1つの時代を設定することで、より具体的にイメージ化することができた。もう1つは、《現在から過去、そして未来へ》という視点で、検証授業文京区の事例では、「今、自分の住んでいる地域」にスポットをあて、過去に遡る方法を試みた。これは、公民的分野あるいは総合的な学習の時間での「将来のまちづくり構想」にまで生かすことができる可能性をもち、連続性のある授業構想となった。

###### ② テーマの設定と調べ方において、どう学び方を身に付けさせるか

テーマを設定する際、教師主導による項目のグループ化（政治、産業など）はあえて行わないこととし、生徒の興味・関心に基づいて生徒自身の着眼点を大切にテーマを設定することとした。その結果、生徒同士の活発な意見交換が行われる中で、意欲をもって主体的に取り組むことのできるテーマ（予想以上の多方面にわたるテーマ）を生徒自身で設定することができた。同様に、調べ方についても情報の共有化を試みた結果、他の班の調べ方を参考にして、より幅の広い調査方法を探求する姿勢を身に付け、実践するのに役立った。

###### ③ 意欲の継続と「表現」をどうするか→自己表現力の育成へ

ワークシートと自己評価カードを用意し、学習活動ごとに記入することを指示した。これは、この学習の意義を常に意識させるとともに学習の過程で生徒の意識や認識がどう変容し深化していったかを知る手がかりとなった。また、教師が一人一人の生徒の実態を把握し、学習意欲が継続するよう適切なアドバイスをすることもできた。

本研究では、学習の過程に重点を置き、調べ学習をすることで歴史をどのように理解したか、すなわちその生徒なりの時代像をどうとらえたかを、自分が調べた内容や友人の発表を聞いて、感じたりイメージした歴史の流れを「自分の得意とするもの」（言葉や絵・キャッチコピーなど）で表現させることにより、それぞれの生徒の時代の見方・考え方を把握した。認識の深浅はあるものの、生徒個々人の思いが伝わる表現がされていた。

##### (2) 今後の課題

- ① 生徒にテーマへの興味・関心を喚起させ、学習意欲を持続させる更なる工夫。
- ② 資料収集の効率化のため、学校の図書室・郷土資料館などの施設の充実。
- ③ 発表形態の工夫と種々の発表形態の体験→「表現方法・表現力の育成」、「新たな問題解決方法を見出そうとする姿勢の持続」、「探求心の持続」
- ④ 生徒の変容を見極める「教師の目」と、生徒自身が自己の変容に気づく「自分に対する目」という2つの視点での評価の在り方。
- ⑤ 歴史を学ぶ力を育成するための3年間を見通した指導計画→学び方・調べ方学習の意図的・計画的設定。